

北社会ニュース

★26号

2006年9月21日

発行者: 鈴木丈夫

前回7月の第244回北社会では久し振りに「男の伝統」の真骨頂を
経験させてくれたおきました。学院賞を受賞の和賀井敏夫先輩を
初めとして山川先輩青山先輩を珍しくリクエストされ、「男の仲間内」
の楽しい暴露(?) 発言がありました。背筋をピンと伸ばせば、八十才台
でも青春であり続けたい男もいたのだという日もありました。

(1) 本日第245回北社会 講師 渋谷正史氏 (高15回)

日本癌学会「岩田富三賞」受賞記念に講演を依頼されました。

「がんの兵器攻め... 血管を標的にした新しいがん治療法」がテーマで、

予習のため渋谷さんから推薦の「がん細胞の生物学」
東京大学出版会 を購読しましたが、私

理解したのは「栄養と酸素がいかに細胞が増殖し続けることが不可能」という一

点だけでした。今夕は早速丁寧な解説にて、月寛であるご縁に感謝いたします。

(2) 来月以降の北社会開催予定

10月 休会 18日(木) 東京同窓会によるの月例会と参加(予定)!!

11月15日(木) 佐藤芳直氏 (高28回) (株)S.Y.ワークス代表取締役

仙台発大人の情報誌「MISK」を二巻出版された。数年前、同刊の新幹線車中で

会記の中心が動く本人物の1対2の記事が掲載された。

1990年代後半の業績、1994年30才で当時の物産企業最年少役員就任

で世間の注目を集めて... 2のやりかたストーリーとは別に、身ごとのこととして

毎年不況から出向先、グリズリーが刺さるの早稲穂を原野に干す出張記

と題して、11月15日(木)15時の懇話会でお話いただきます。"ナミの男はナミ"と題し、略歴をまとめたエッセイ(11)二巻の後巻と題されました。最近の著書「船中雑記の60の録」を以て、贈読し仙台同窓会にお願いしました。経営者人生を、

マサシハラス 人間は人間として生きていくべきこと、流転する。

たは

(3) 仙台二高・柏葉浩明 校長先生にお会いして

今年上中3年8組のクラス会「木魚の会」が開催され、仙台に行くので「都合が立たないから会いたくない」と直前にMAXでお願いし、お時間を割いていただいたお礼です。9月7日(水)の夜、仙台は夏の名残で少し暑かったのですが、素晴らしい環境が、お入学の目的を改めて示されました。校長先生は昭和22年生まれ、古川高出身の約18回生です。来年還暦です。男女共学・学級制廃止等からお話を聞かれたことと連絡し、周知に準備は完了しました。特に男女共学。6月に開催された「入学説明会」には例年の倍140人が参加、4割は女子が参加しています。「共学についても校名・校歌・校章も校歌は古く長い歴史で培った校風は変わらない」と校長先生が冒頭に説明。定員は320名(8クラス)。1月来推薦入学64名。3月入試は計256名。男女の比率は無し。男子校の伝統を引き継ぐ中で予備校等の推挙では初年度は女子は⁴⁰50人、数年後最大でも100人程度の見方らしい。これ等の設備は古く希有。今年4月現在の^{菅野}菅野時代の10月号には「母校の格付け」は超難関大学の合格率で全国公立校中3位のこと。私、個人としては誇りに思っているが、複雑で、学級制廃止は数年後には「仙台市内中の危機意識議論」されている。校内の雰囲気も伺った。直前に「58回北陵祭」が多数の在校生の自主運営で開催され盛り上がった。共学についても文武「道」に代表される精神のしつかりを引き継いでいく。その精神を求めている生徒が入学し蓄積していく。教員も一生懸命指導している。生徒も自信に満ちた校長先生が話されました。

※7月24日の記事で乱筆(訂正)は修正しない。